

第4回 秦野市4駅にぎわい創造検討懇話会 (鶴巻温泉駅)

令和5年9月6日(水)

午後3時～ 弘法の里湯2階休憩室

秦野市4駅にぎわい創造検討懇話会とは？

まちに関わる様々な人のまちに対する
思い、アイデアを共有し、形にする場

- ▶ 自分事として将来のまち(将来の暮らし等)を考える・共有する。
- ▶ やりたいこと、できそうなこと(アイデア)を具体化し、実践・検証しながら、今後の自分達の役割、関わり方について考える。
- ▶ 懇話会を通じて、仲間づくりや街に関わることの楽しさ・達成感につなげていく。

懇話会でやろうとしていること

- ▶ 自分たちができる、「まちにいいこと」を考える
- ▶ 「どこで」「なに」をやるとまちが活性化しそうかを考える
 - ・実際にやってみる
 - 例えば…「空地でマルシェをやってみる」「道端にベンチを置く」
- ▶ 活動と議論を積み重ねる。



- ▶ 実際の体験などをもとに、自然体のまちの方向性づくりを行う。
- ▶ 行政は、活動を支援する形で、できること・やるべきことを施策とする。



まちの活性化・多くの人がまちのにぎわいづくりに参加したくなる

第3回目 of 成果

第3回 開催概要

- ▶ 日 時：令和5年7月12日（水）15時～17時
- ▶ 会 場：弘法の里湯2階 休憩室
- ▶ 参加人数：11名
- ▶ ワークショップテーマ
各自まちを見て感じた魅力・特徴・課題の再抽出
小田急電鉄総合車両所移転計画を踏まえた、今後の鶴巻地区について意見交換



次第及び懇話会で話し合われた内容

1 開会	小奈座長により開会
2 懇話会について	
3 前回までの振り返り	
4 ワークショップ①	課題の抽出及びまちの魅力の再発見についてグループごと議論
(1) ワークショップの進め方について	
(2) ワークショップ：グループA・Bに分かれて作業	
(3) 全体発表：グループA・Bから発表	グループA：前成人式実行員会小奈さん グループB：鶴巻温泉南町商店会関野さんから発表
5 小田急電鉄総合車両移転計画について	鶴巻温泉観光客受入検討会会長川上さんより小田急電鉄総合車両所移転計画を踏まえた、今後の鶴巻地区について資料を用いて提案・意見。
6 ワークショップ②	にぎわい創造のためやりたいこと・アイデア考える
(1) ワークショップの進め方について	
(2) ワークショップ：A・Bに分かれて作業	各自のアイデア出しは後日提出をお願いし、共有は次回以降行う。
7 次回の説明	再度確認した鶴巻地区の魅力・特徴や足りないものを基に今後どんな取り組みをしていくのか検討をしていく。 ワークショップ②で予定していたやりたいことのアイデアについては、次回までに提出いただくように案内。
8 閉会	小奈座長により閉会

ワークショップで出された意見

まち（鶴巻地区）の特徴・魅力		
自然と触れ合える距離が近い。	草刈り	美味しい飲食店が多い
盆地ということもあり災害が少ない。	秦野は市民の半分が転入者。 新しい考え方と従前の考え方がmixできるまち。 鶴巻はそのモデルになる。	ニュートカトマンズキッチンカレー屋
朝市（毎週土曜日）	駅前が明るくきれい	聖林のからあげ
マルシェ（JA 水曜日）	駅周辺は住宅地だが、一歩進めば自然がある。	おおね公園が子どもの遊び場になっている。
拠点（月・水・金9：00～12：00）野菜販売・地元農家	都心（東京・横浜）から近い。	ひかりの街公園
元気な若者を応援する人たちがいる。	道祖神・こうしん塚・馬頭観音	つどいの場 嬉楽
あじさい遊歩道まつり	歴史・文化を継承していきたい人がいる（年配）。	田園
温泉が駅近くにあり、登山者の利用も多い。	まちがきれい	里湯

ワークショップで出された意見

足りないもの		
善波川がゴミで汚れている→クリーン活動ができれば	買い物にやや難あり（食品以外）	知る人ぞ知るになっている。 ふらっと立ち寄れるまちになるとよい。
人口、通行量調査で判断される需要に応えられる店がない。	駅前（広場）のベンチ 南口には1つしかない。 バスを立って待っている。	駅周辺のにぎわい
マーケット（人）が先、お店はあとから、はりつく。 交流人口でいい。キャッシュレスが使える店、お土産が買える仕組み	居住者の方々の多数（特にマンション）がまちとのコミュニケーションに対して関心が薄い。	知名度
盆地で坂が多い。アクティビティとして自転車はあり。 日々の生活では難しい人もいる。	若者の多くがまちとのコミュニケーションに対して関心が薄い	若者の関心や興味
飲食店や商店街の活性化	安心して集える広場がない	子どもの居場所
カフェなど （広場文化、比較的時間のある高齢者、子育て世代が集える場が必要）	外国籍の方々との交流 （専門学生・工場勤務・ベトナム）	若者が遊ぶ場所
県道沿いに歩道がないところがある	施設の分散	温泉街ぼさ
お土産	年間来館15万人の里湯の利活用	

小田急電鉄総合車両所移転計画について

○懇話会の目的である20、30年先を見据えた議論のテーマとして、小田急電鉄の総合車両所移転計画について、計画書抜粋資料をもとに、情報共有。

- ・総合車両所の予定地は、鶴巻近傍の伊勢原市笠窪、串橋エリア。
- ・10年後の操業（2033年度の操業予定）が予定されている。
- ・24時間稼働の事業所で、従業員は300人規模。

○鶴巻温泉観光客受入環境検討会の川上さんから、この計画に伴う鶴巻地域への影響や、鶴巻のまちづくりについて、資料をもとに提案あり。

- ・伊勢原市笠窪、串橋エリアは、鶴巻住民にとっては、鶴巻とひと続き。300人の従業員を鶴巻に引き込んでいくことが重要。
- ・伊勢原市は、総合車両所の建設に合わせ、車両所から伊勢原方面を結ぶ都市計画道路3・4・4号線のみを整備を発表したが、鶴巻にはつながらない。鶴巻に人流を引き込むには、南北を結ぶ都市計画道路3・4・6号線の実施が必要だと思う。
- ・都市計画道路3・4・6号線の実施を前提に、鶴巻に人流を呼び込む案として、3・4・6号線からおおね公園を結ぶエリアを交通・利便性優先エリアに、駅周辺を街歩き優先エリアとした案を作成した。街歩き優先エリアには、陣屋、弘法の里湯、延命地蔵、大ケヤキのほか、古民家や旅館跡地など、人々の交流拠点として活用できそうなものも点在。
- ・今後、懇話会でも、委員がそれぞれ、具体の動きも踏まえて、まちの未来について考えてはどうか。

前回出されたアイデア

◆ 居場所づくり

- 多世代の立ち寄れる場所
(子どもの居場所、学習の場、休憩所、来街者の立ち寄れる場)

◆ 温泉の活用

- 弘法の里湯で鶴巻地区のお店を紹介
13万人の利用者をまちの中へ呼び込む

◆ 情報発信

- SNSやイベントで鶴巻地区をアピール
インフルエンサーの起用
飲食店マップづくり
動画作成

◆ 安心安全なまちづくり

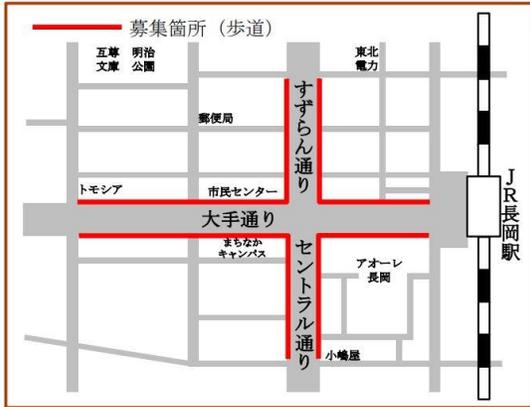
◆ 古民家等の跡地活用



【参考資料】歩道にテーブルやイスを設置するなど歩道空間を有効活用している取り組み (新潟県長岡市)

概要

歩道上でのテーブル・イスの設置やイベント開催等、商店街のにぎわい醸成に資する活動を促進し、**来街者の増加や市民の居場所を創出**する。



しえあぼん ▲

まちなかに自由に持ち帰れる本棚を設置し、市民が気軽に手に取り、シェアする環境をつくることで、多くの市民から「本」に親しんでもらう。



▲ 野外！プチのも〜れ！

アモーレ長岡で行っていた市民交流会「のも〜れ長岡」を野外で実施。軽食や飲み物をふるまい、講座の開催やNPO法人市民協働ネットワークの活動をPRする。

▼ 本気の流しそうめん

スズラン通りに面した店舗同士が協力してイベントを開催。多くの人が中心市街地を訪れる機会をつくり、「長岡の良い店、良い人」を知ってもらう。



年度	実施期間	店舗数
平成28年度	3日間	16店舗
平成29年度	10日間	18店舗
	17日間	18店舗
平成30年度	約5か月	19店舗
令和元年	通年開催	—

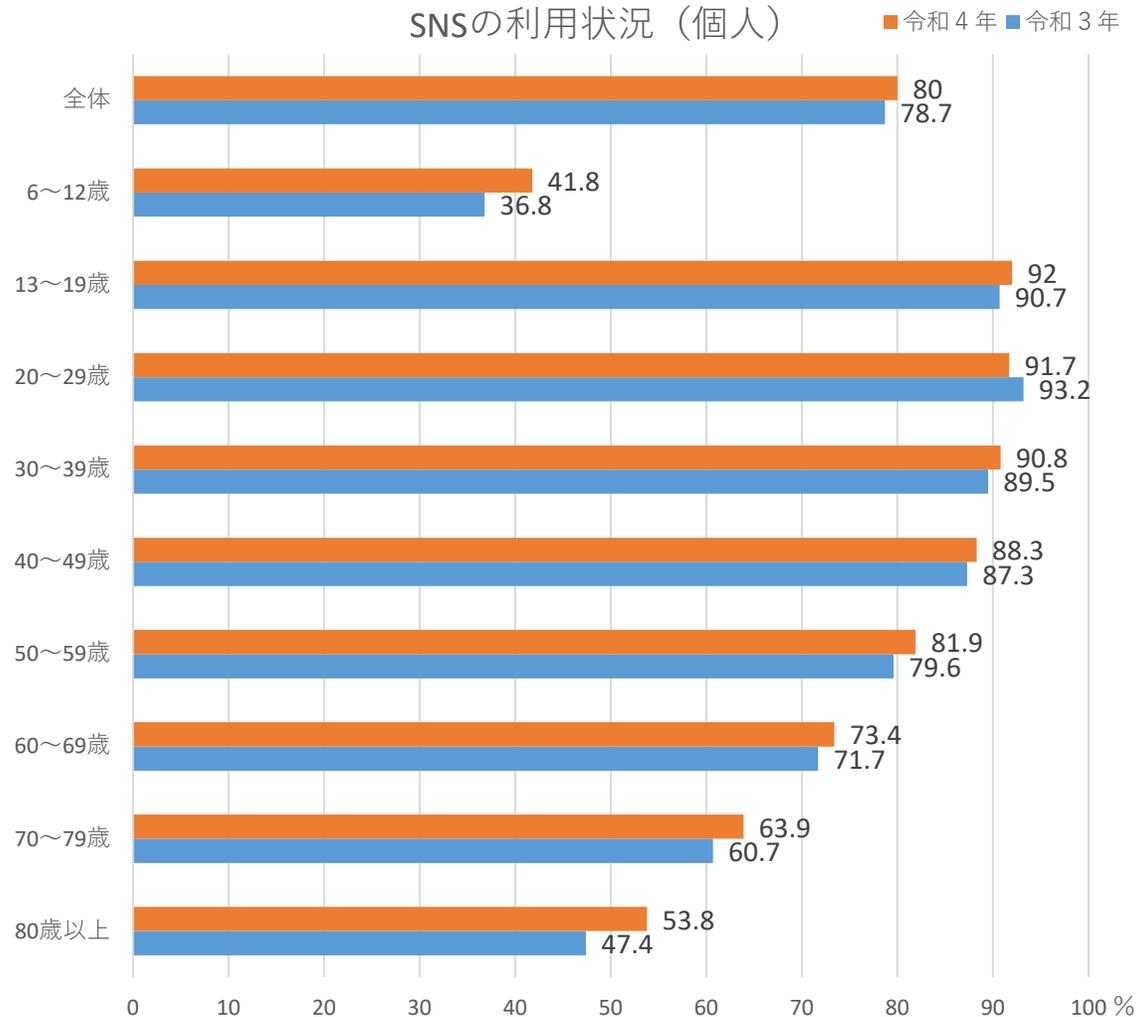
平成28年度から、官民一体となって歩道空間を活用した活性化の検討に着手。歩道の**有効活用社会実験「まぢカフェ」**として歩道空間活用制度を開始し、令和元年度から道路占用の特例の活用を本格実施している。社会実験により、出店者側へ運用のルールと日常的に歩道空間を活用する様子が市民へ定着した。

【参考資料】SNSの利用動向(個人)

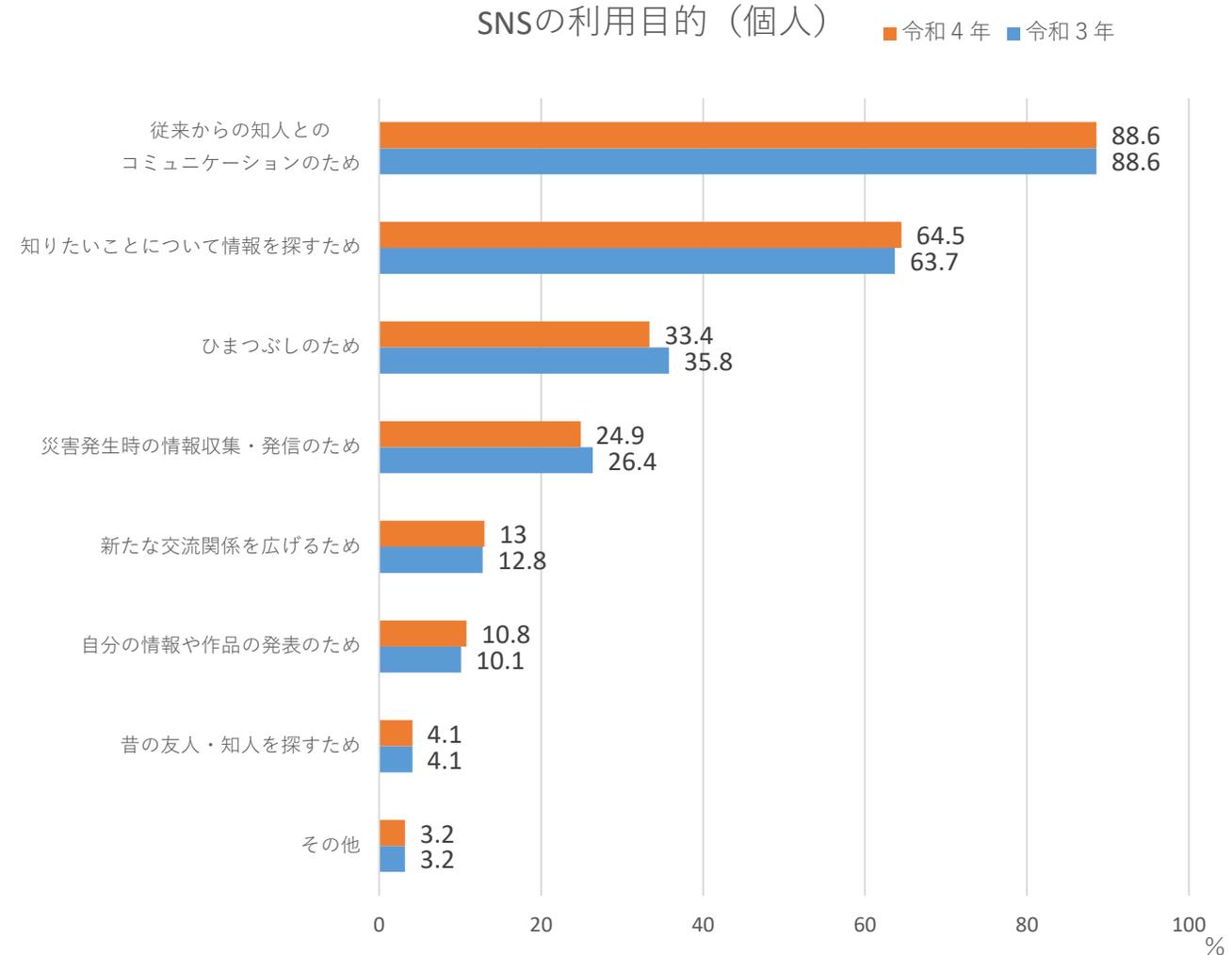
SNS(注)を利用している個人の割合は、**ほぼ全ての年齢階層で増加**し、特に6～12歳及び70歳以上の各年齢層での伸び率が高い。利用目的については、令和3年調査から大きな変化は見られず、「**従来からの知人とのコミュニケーションのため**」の割合が最も高い。

(注)ここでのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)とは、Facebook、Twitter、LINE、mixi、Instagram、Skypeなど指す。

SNSの利用状況(個人)



SNSの利用目的(個人)



【鶴巻地区で実践】LINEの活用 紙のポイントカードに代わる「ショップカード」機能

店舗では、紙のポイントカードを使って来店や商品購入に応じて、ポイントを付与し、ポイントがたまると割引やプレゼントなどの特典を用意する取り組みが良く行われます。LINE公式アカウントの「ショップカード」はこのポイントカードをLINE上で発行・管理できる機能です。

LINE公式アカウントの管理画面から発行されるポイント付与専用のQRコードを、来店時や商品購入時にユーザーがスマートフォンで読み取ることでポイントが付与されます。



ショップカードを活用した企業・店舗の事例 大阪府にある温泉施設「蔵前温泉 さらさのゆ」

源泉かけ流しの天然温泉、シルク風呂や電気風呂などさまざまな設備が整っている温泉施設「蔵前温泉 さらさのゆ」では、若年層に施設の魅力を伝えきれていないという課題を感じていました。

そこで、LINE公式アカウントのショップカードを導入したところ、**若年層だけではなく幅広い年齢層のユーザーにアプローチ**ができるようになりました。また、施設の受付付近にポイント付与のQRコードを設置したことで、ユーザーとのコミュニケーションのきっかけにもつながっています。もちろん、ユーザーとのコミュニケーションだけでなく、**再来店にもつながっていることで、結果的にチラシ代など販促費を削減**することもできました。

鶴巻温泉駅観光客受け入れ検討会でLINEのショップカード機能の活用ができないかとの意見が出され、

9月16日から12月10日の期間でキャンペーンが実施されます。

にぎわい懇話会としても、後押しできることや、商業以外の場面でも活用できるアイデアがないか考えていければと思います。

参考)LINE for Business

<https://www.linebiz.com/jp/column/technique/20190627-01/>

<https://www.linebiz.com/jp/case-study/sarasanoyu/>

ワークショップ

ソロワーク(10分) (第3回目の続きになります)

にぎわい創造のために「やりたいこと・アイデア」を共有する

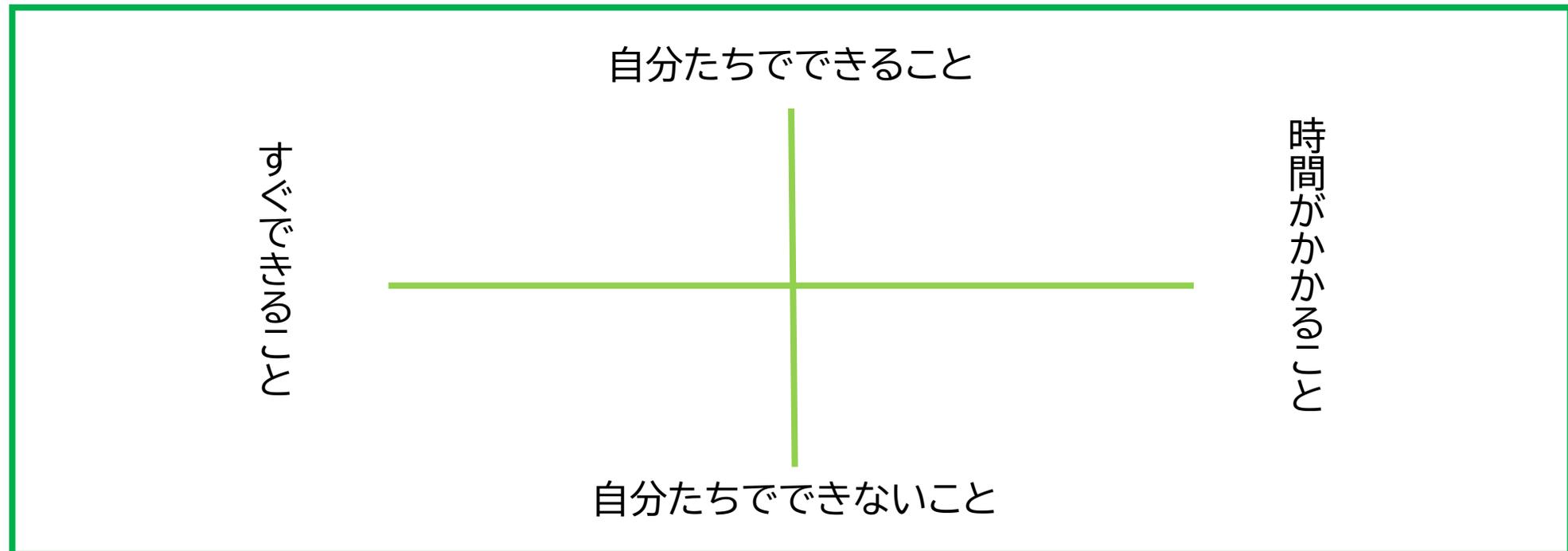
- ▶ 鶴巻温泉駅周辺の特徴・魅力を生かし、足りないものを解決するために「やりたいこと」「やるべき」のアイデア
- ▶ 「アイデア」を続けていくこと、まちはどう変わっていくのか創造する
- ▶ 10年後・20年後の鶴巻地区でどのように暮らしたいか、創造する

付箋にアイデアを書き出してください。

グループワーク(20分)

ソロワークで考えた「やりたいことのアイディア」をグループ内で共有し、

- ▶ すぐにできること・時間がかかること
- ▶ 自分たちでできること・自分たちだけではできないことを分類する。



全体発表（1班10分程度）

グループワークのまとめを発表し、
みんなの考えを共有する。

グループワークのまとめを発表する人を1名決めてください。

ワークショップのルール

ワークショップは、趣旨に則った意見交換の場です。
全員が発言できるように、話は簡潔にまとめ、
他の人の意見も十分に聞けるようにしてください。

- ◎ 自主性(自発性)を存分に発揮しましょう。
- ◎ 参加者相互の立場を尊重しましょう。
(他人の意見の非難・中傷はご遠慮ください。)
- ◎ 目的や情報など基礎的な共通認識を参加者で共有しながら進めましょう。
- ◎ ワークショップを楽しみましょう。

次回以降の懇話会で考えていくこと

- アイディアを実現のために必要なモノ・コトを考える。
 - ⇒地域でできることはなにか
 - ⇒都市機能・空間・事業・取り組み
- 魅力や特徴をどのように発信していくか考える。
 - ⇒どの年代をターゲットに、どのような媒体で

次回の懇話会の日程

候補① 11月 8日(水) 15:00~

候補② 11月15日(水) 15:00~